

逆境の中で病院を発展させるために

病院を取り巻く環境は短期間の間に大きく変化してきており、平成30年度の診療報酬改定が予定されている中、病院経営はより一層厳しい状況になることが想定されています。このような医療環境の中でも高知病院は時代の要請に応えていかなければなりません。そのためには地域の皆さんに信頼される病院になることが不可欠です。地域に信頼される病院になるには地域の皆さんに病院を知ってもらうことが重要で、そのため今年も5月20日に第9回の健康フェスタを開催しました。今年のテーマは「つなげよう健康の輪、つながろう地域の輪」で500名近くの方がフェスタに足を運んでくれました。例年のように体験コーナー、こどもコーナー、展示コーナー、パネル展示、スタンプラリー、販売コーナーなど様々な企画をたてましたが、参加された方々には高知病院を身近に感じていただけたと思います。この企画に際し高知市消防局、高知南警察署、JAコスモス、高知大学教育学部附属特別支援学校の皆さんには多大なご協力をいただき感謝しております。また、健康フェスタの開催に合わせ市民公開講座を例年実施しておりますが今年は「身近にあるがんのお話」というテーマで呼吸器科の畠山先生から肺癌について、泌尿器科の佐竹先生から泌尿科関連の癌について、外科の福山先生から乳癌についての話があり多くの方が聞きにこられ、がんについての情報の提供ができたものと思っております。また、オープニングでは朝倉中学吹奏楽部、エンディングでは高知大学教育学部音楽系コースの教員・学生の皆さん、高知病院附属看護学校の学生有志の皆さんが素晴らしい演奏やコーラスを披露していただきフェスタを盛り上げてくれました。病院職員、看護学生の皆さんには土曜日にもかかわらず多数の方がボランティアとして参加しフェスタ運営に協力していただき本当にありがとうございました。病院行事に積極的に参加してくれる職員の、この団結力が高知病院の強みだと思います。先日、日本慢性期医療協会会長の武久洋三先生の講演「経営・治療・栄養管理・2018年診療報酬改定～慢性期医療での検証～」を聴く機会がありましたが、急性期病院は慢性期の病院の動向を理解しておく必要があると実感しました。全国に9000床近くの病床を持つ病院群を運営している先生の話は非常に説得力があり私達の病院の置かれている立場も非常に厳しいことを実感しました。国立病院機構の病院は県立病院、市立病院などが行政から補助をうけているのに対し独立採算で運営をしていかなければなりませんので民間病院と同じ立場です。武久先生が行政からの支援のない民間病院はしっかり今後を見据えて方向性を決めなければ病院はつぶれると話されていましたが、このことは高知病院にもあてはまることです。病院は利益を得ることが目的ではありませんが、良質な医療を提供するための経営基盤の確立は最も重要です。医療を取り巻く環境はこれから益々厳しくなり運営ができなくなる機構病院もあるかもしれませんが、職員個々がこの状況を理解し高知病院の強みである団結力をより強固にし、この逆境を乗り越えて行きましょう。